

令和8年度 優秀映画鑑賞推進事業

新春 アピカ名画座

2027年1月10日(日)10時開演／14時開演

めぐりあい [1968年 東宝](カラー／シネマスコープ／モノラル／91分)

脚本 山田 信夫 脚本・監督 恩地 日出夫

出演者 黒沢 年男 酒井 和歌子 田村 亮 菅井 きん 森 光子 ほか

日本の高度成長を舞台裏から支えてきた工業都市・川崎。この休みなく動く街のなかで、自動車工場の組立工として働く努とベアリング店に勤める典子。それぞれに複雑な家庭事情を抱え、貧しさにもがきながらも、健気に生きている。そんな二人がふと出会い、恋に落ち、別れのつらさを乗り越えて、互いの愛を確かめ合う。『あこがれ』(1966)のヒットにより、東宝青春映画の旗手として注目を浴びた恩地日出夫が、酒井和歌子を初めて主演に起用し、時代の波や家族の重圧にもまれながらも、ひたむきに生きてゆく若者像を鮮烈に描き出した。脚本家の山田信夫が当初、日活の蔵原惟繕監督のために準備した脚本を、東宝が引き取って映画化が実現。武満徹作曲の主題歌を荒木一郎が唄い、タイトルバックをイラストレーターのと田誠が演出している。その後、東宝では1970年代半ばまで、森谷司郎や出目昌伸らがコンスタントに青春映画の傑作を発表していく。



伊豆の踊子 [1974年 東宝＝ホリプロ](カラー／シネマスコープ／モノラル／82分)

原作 川端 康成 脚本 若杉 光夫 監督 西河 克己

出演者 山口 百恵 三浦 友和 中山 仁 ナレーター 宇野 重吉 ほか

青春小説の名作として知られる川端康成の同名小説の映画化。田中絹代と大日方伝が主演した、五所平之助監督の松竹作品(1933)を第1回として、これまでに全部で6回映画化されている。踊り子を演じたのは、美空ひばり、鰐淵晴子、吉永小百合、内藤洋子らで、いずれもその時代の青春スターであった。本作の特徴は、五所作品と同じく、旅芸人たちの社会的な位置を明確にしている点にある。

その視点はラストの印象的なストップモーションからも見てとることができるだろう。西河克己監督にとっては、1963年の吉永小百合主演作品に次いで2度目の映画化であった。山口百恵は1970年代のアイドル歌手で、絶大な人気を誇っていた。相手役となる一高生役は公募され、まだ無名だった三浦友和が抜擢された。この後二人は「百恵＝友和」のゴールデンコンビとして12本の作品で共演し数々のヒット作を放ち、1970年代青春映画に大きな足跡を残した。

国立映画アーカイブでは、広く皆様に優れた日本映画を鑑賞していただくとともに、映画保存への理解を深めていただくことを目的に、平成元年度から「優秀映画鑑賞推進事業」を実施しております。本事業では、昭和11年から平成18年にかけて製作された日本映画の中から、映画史を代表する作品や多くの人々より好評を得た作品を選んで、国立映画アーカイブ所蔵の35mmフィルムにて、全国各地で上映いたします。また本年度は試行的に、デジタル上映プログラムも映画会社の協力を得て導入しています。

現在では稀少なフィルムでの上映や、スクリーンでの鑑賞体験を通して、皆様に映像芸術の原点となる映画と映画文化の素晴らしさをご理解いただき、本事業が地域における上映活動や文化活動を活性化させる一助となることを期待しております。



令和8年度 優秀映画鑑賞推進事業

西脇市立音楽ホール「アピカホール」

